三重県多気郡明和町
斎宮跡埋蔵文化財調査報告30

史跡 斎宮跡

平成24年度現状変更緊急発掘調査報告

平成26(2014)年3月

明和町

序

史跡斎宮跡地内では、平成24年６月に認定を受けました『明和町歴史的風致維持向上計画』の事業がいよいよ始まりました。本年度は、斎宮駅北口開放に伴う用地取得や休憩所、散策道等の実施設計など12項目のハード事業と史跡活用調査など２項目のソフト事業に着手いたしました。

本格的な工事は、来年度からになりますが、着々と事業推進に努め、次世代への文化の継承を進めると共に地域活性化につなげていかなければならないと考えています。

また、昨年10月には、伊勢神宮の御遷宮がとり行われ、１千万人を超える参拝客が訪れております。本町もこの機会を生かし、「斎宮・外宮・内宮」や「伊勢の入口　明和町」をキャッチフレーズに知名度向上にも努力してまいりました。

今後、伊勢を訪れる観光客が増えていくことが見込まれることから、平成27年に完成する実物大の復元建物を含む史跡東部柳原区画整備事業に合わせて情報を発信し、斎宮に訪れてもらえるよう魅力あるものにしていきたいと考えます。

本報告書は、史跡地内で個人住宅等の建設などに伴い、発掘調査が必要であった６件の結果についてまとめたものです。

発掘調査にご理解とご協力いただきました地元地権者の皆さま、また、発掘調査から報告書作成に至るまでご協力いただいた斎宮歴史博物館調査研究課の方々に対してここに厚くお礼申し上げます。

平成26（2014）年３月

三重県多気郡明和町

町長 中 井 幸 充

例　　言

1　本書は、平成24（2012）年度に明和町が実施した史跡斎宮跡（三重県多気郡明和町斎宮・竹川地区）の現状変更緊急発掘調査の結果をまとめたものである。

2　本書に掲載した調査は、国庫および県費の補助金を受けて実施したものである。

3　調査は明和町が主体となり、斎宮歴史博物館および明和町斎宮跡・文化観光課が現地調査を担当した。

4　第178－２・４次調査については、別途報告書を刊行する。

5　調査区名の表示方法（例：６ＡＬ１３）については、『史跡斎宮跡平成13年度発掘調査概報』（斎宮歴史博物館　2003）による。

6　遺構の平面図は、過年度との整合をはかるため、「測地成果2000」以前の旧国土座標第Ⅵ系に相当する座標系を用いて表示している。

7　遺構の時期区分については、『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』（2001）を基準とした。

8　遺構名冒頭の略記号は、遺構の形態から以下のように表記している。
　ＳＡ：柱列・塀　　ＳＢ：掘立柱建物　　ＳＤ：溝　　ＳＥ：井戸　　ＳＦ：道路
　ＳＫ：土坑　　ＳＨ：竪穴住居　　ＳＺ：落ち込み等　　ＳＸ：墓・不明遺構

9　図面・写真等の調査資料類および出土遺物は、斎宮歴史博物館で一括保管している。

10　本書の執筆は、新名強（斎宮歴史博物館）が前言・調査報告を、中野敦夫（明和町斎宮跡・文化観光課）が付編の執筆を行い、編集は新名・中野が担当した。

目　次

Ⅰ　前言 …… 1
Ⅱ　調査報告
　1　第178－1次調査 …… 2
　2　第178－3次調査 …… 3
　3　第178－5次調査 …… 3
　4　第178－6次調査 …… 4
　5　第178－7次調査 …… 6
　6　第178－8次調査 …… 7
付編　史跡現状変更等許可申請 …… 9

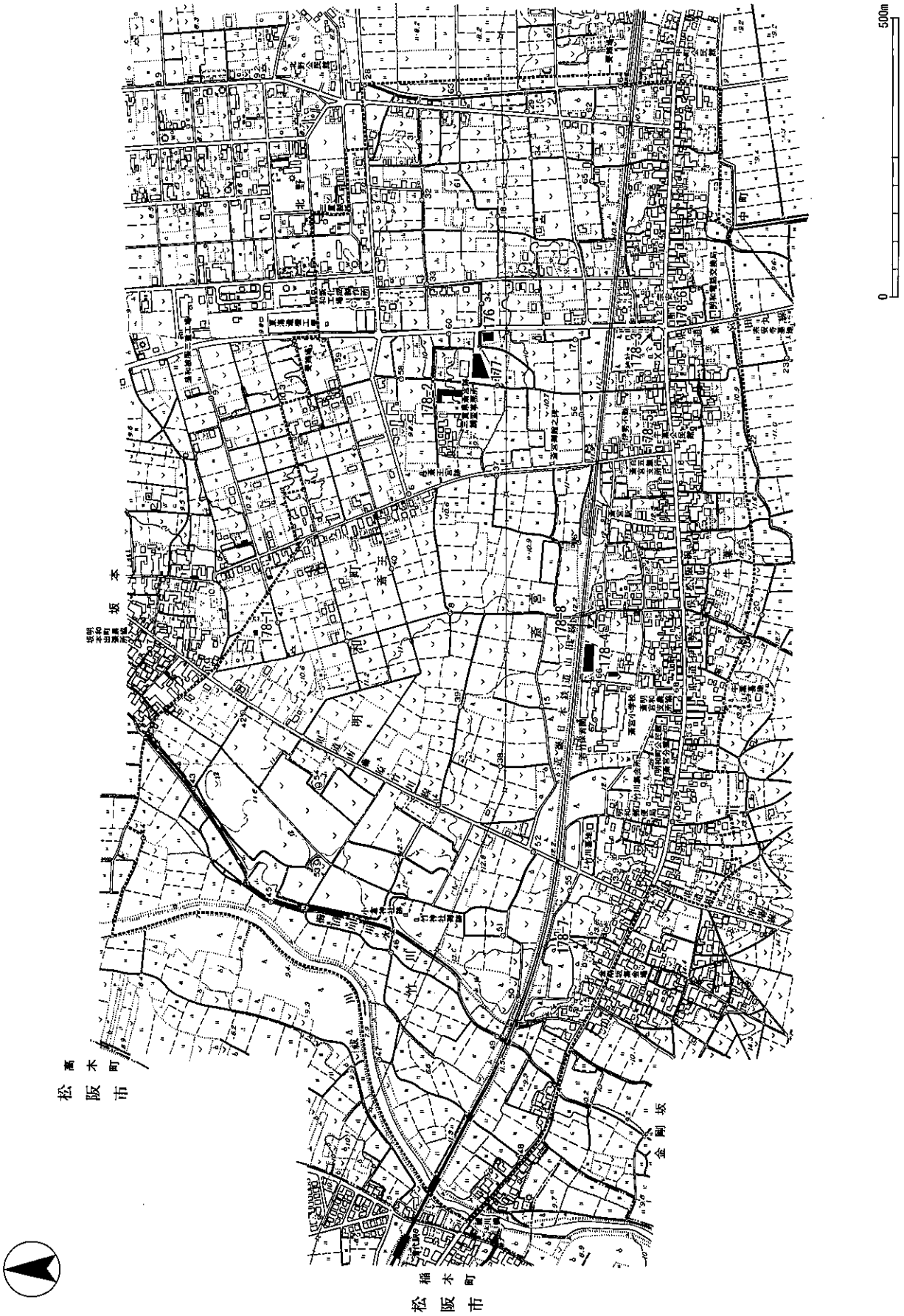
表・挿図目次

［表］
1　史跡現状変更等許可申請の推移
2　第178次調査　遺構一覧
3　第178次調査　出土遺物観察表
4　平成24年度史跡現状変更等許可申請一覧

［図］
1　発掘調査地位置図
2　第178－1次調査　調査区位置図
3　第178－1次調査　遺物実測図
4　第178－1次調査　遺構平面図・断面図
5　第178－3次調査　調査区位置図
6　第178－3次調査　遺構平面図・断面図
7　第178－5次調査　調査区位置図
8　第178－5次調査　遺構平面図・断面図
9　第178－5次調査　遺物実測図
10　第178－6次調査　調査区位置図
11　第178－6次調査　遺構平面図・断面図
12　第178－6次調査　遺物実測図
13　第178－7次調査　調査区位置図
14　第178－7次調査　遺構平面図・断面図
15　第178－8次調査　調査区位置図
16　第178－8次調査　遺構平面図・断面図

写真図版

写真図版1　上：第178－1次調査　下：178－3次調査
写真図版2　上：第178－5次調査　下：178－5次調査
写真図版3　上：第178－6次調査　下：178－8次調査



第１図　発掘調査地区位置図（１：10,000）

Ⅰ　前　言

史跡斎宮跡では、平成24年度に35件の現状変更等許可申請が提出された。史跡指定後、年間約40～50件程度で推移してきており、今年度も同様の傾向が窺える。

内訳をみると、史跡内住民による個人住宅の新築や改築および撤去、合併浄化槽の設置、三重県による史跡公園整備、明和町による斎宮小学校プールおよび児童クラブの移設、史跡公園(下園東区画広場)整備などがある。このうち、発掘調査が必要となった案件は８件であった。

明和町の史跡公園(下園東区画広場)整備に先立つ実態解明調査は第178－２次調査として490.5㎡の調査を、斎宮小学校プールおよび児童クラブ移転事業に先立つ実態解明調査は第178－４次調査として1,318㎡の調査を、ともに町単費で行った。これらは24年度に実施した現状変更に伴う発掘調査面積全体(1,899.2㎡)の95.2%にあたる。

第178－１・５・６次調査は個人住宅の新築・改築に伴う調査で、建物の基礎にあたる部分を中心に調査を行った。第178－３・７・８次調査は浄化槽設置に伴うもので、浄化槽設置部分の調査を行った。

平成24年度の史跡現状変更に伴う調査では、遺構密度や遺構面の高さの確認など史跡保護に係るデータの蓄積がなされ、斎宮跡の実態解明にとって貴重な成果であった。　　(新名　強)

年　度	現状変更申請数	発掘調査件数	調査面積(㎡)	うち補助金調査件数	同調査面積(㎡)
昭和 54	33	17	3,968	12	996
55	60	12	1,281	10	815
56	53	12	5,416	10	696
57	50	8	657	7	577
58	52	16	3,757	10	1,440
59	30	15	2,884	12	1,589
60	39	8	1,260	5	1,014
61	54	12	1,845	9	1,507
62	57	16	2,854	13	1,620
63	46	17	8,820	7	1,131
平成 元	57	16	7,091	9	1,061
2	58	8	1,397	5	914
3	46	3	1,550	1	1,190
4	41	6	895	5	825
5	48	8	1,670	6	1,090
6	35	6	1,360	4	1,032
7	39	2	587	1	480
8	47	6	709	4	613
9	39	6	832	2	452
10	28	4	882	2	396
11	37	8	816	3	186
12	42	10	512	8	469
13	38	14	439	5	409
14	39	22	760	4	304
15	44	19	1,558	8	1,124
16	43	24	2,372	7	762
17	31	14	3,002	8	338
18	31	13	2,171	8	335
19	50	12	374	11	270
20	41	6	237	5	150
21	56	5	790	3	45
22	65	13	448.2	13	448.2
23	43	13	1,070.7	10	223.8
24	35	8	1,899.2	6	90.7
計	1,507	379	66,164.1	233	24,592.7

第１表　史跡現状変更等許可申請の推移

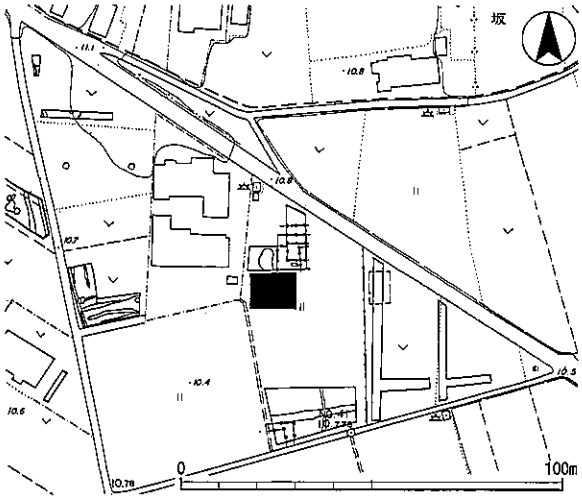
Ⅱ　調 査 報 告

1　第178－１次調査（６ＡＭ５）

調査場所　多気郡明和町斎宮字出在家3237-4
原　　因　住宅新築
調査期間　平成24年４月24～27日
調査面積　34.3㎡
調査概要

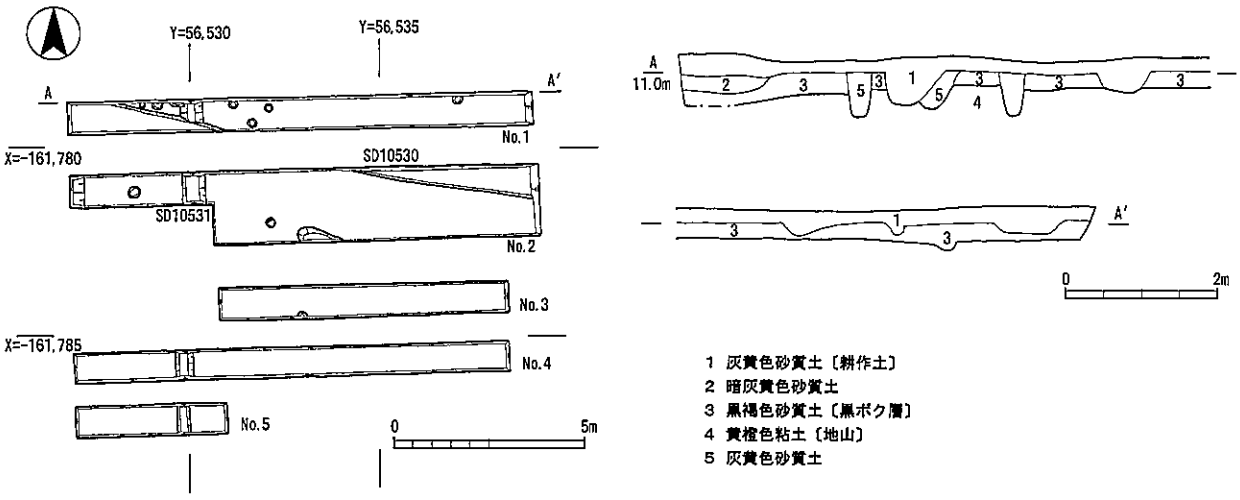
調査地は史跡北西部、斎宮歴史博物館の北東約300ｍに位置する畑地である。個人住宅の新築に伴い、耐震対策で鋼管杭を設置する部分について、５本のトレンチを設定し、発掘調査を実施した。

調査の結果、現地表面下0.2m（標高約11.0m）で遺構面である黒褐色砂質土層（いわゆる黒ボク層）を確認したが、遺構の検出が困難であったため、表土下約0.4m（標高約10.8m）の地山面である黄橙色粘土層上面で遺構検出をおこなった。検出した遺構は、溝２条、土坑、ピットである。溝ＳＤ10530はトレンチNo.１・２を斜行するもので、土師器甕・把手、須恵器甕などが出土したが、いずれも小片であった。溝ＳＤ10531は南北方向の溝で、遺物は出土しておらず、時期は不明。ピットはいずれも小規模で、掘立柱建物になるようなものは確認できなかった。包含層からは、土師器杯（１）が出土しており、斎宮の土器編年[1]Ⅱ-１期のものと考えられる。



第２図　第178-１次調査区位置図（１：2,000）

第３図　第178-１次調査遺物実測図（１：４）



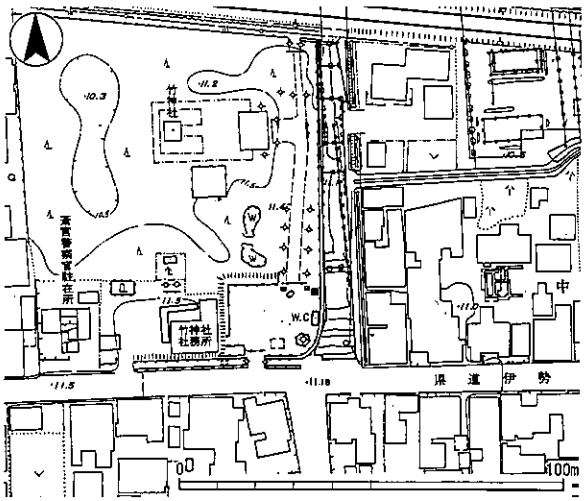
第４図　第178-１次調査　遺構平面図（１：200）・断面図（１：100）

2　第178－３次調査（６ＡＲ12）

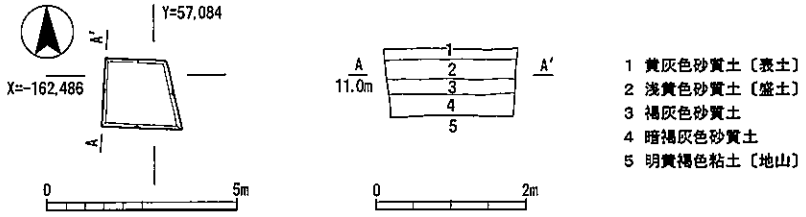
調査場所　多気郡明和町斎宮字牛葉2757-1
原　　因　トイレ改修
調査期間　平成24年11月２日
調査面積　3.3㎡
調査概要

調査地は、平安時代斎宮跡の方格地割でいう牛葉東区画に位置する。これまでに牛葉東区画と鍛冶山西区画では、区画の内側を囲む大規模な柵列が確認されており、斎王の居所である「内院」に推定されている。

今回の調査は竹神社境内の南東部に位置するトイレ改修に伴い、浄化槽設置部分について発掘調査を実施した。現地表面下から0.4mまでは表土および浅黄色砂質土の盛土があり、その下に褐灰色砂質土層が堆積し、現地表面下0.9m（標高約10.4m）で地山面である明黄褐色粘土層を確認した。調査区内はすでに攪乱を受けており、遺構や遺物は確認できなかった。



第５図　第178-３次調査区位置図（１：2,000）



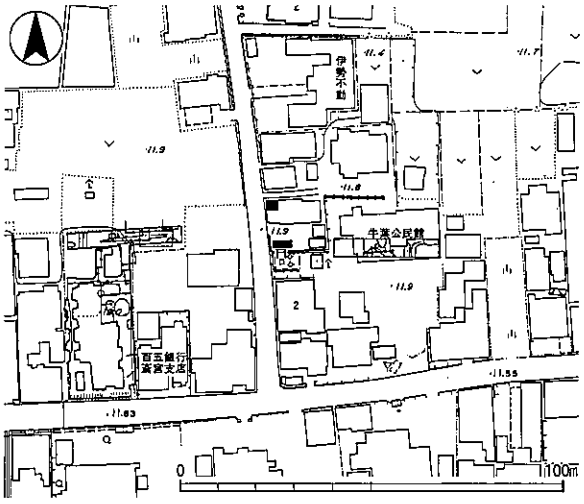
第６図　第178-３次調査　遺構平面図（１：200）・断面図（１：100）

3　第178－５次調査（６ＡＰ12）

調査場所　多気郡明和町字牛葉3017-2
原　　因　住宅建築
調査期間　平成24年12月10日～12月13日
調査面積　16.3㎡
調査概要

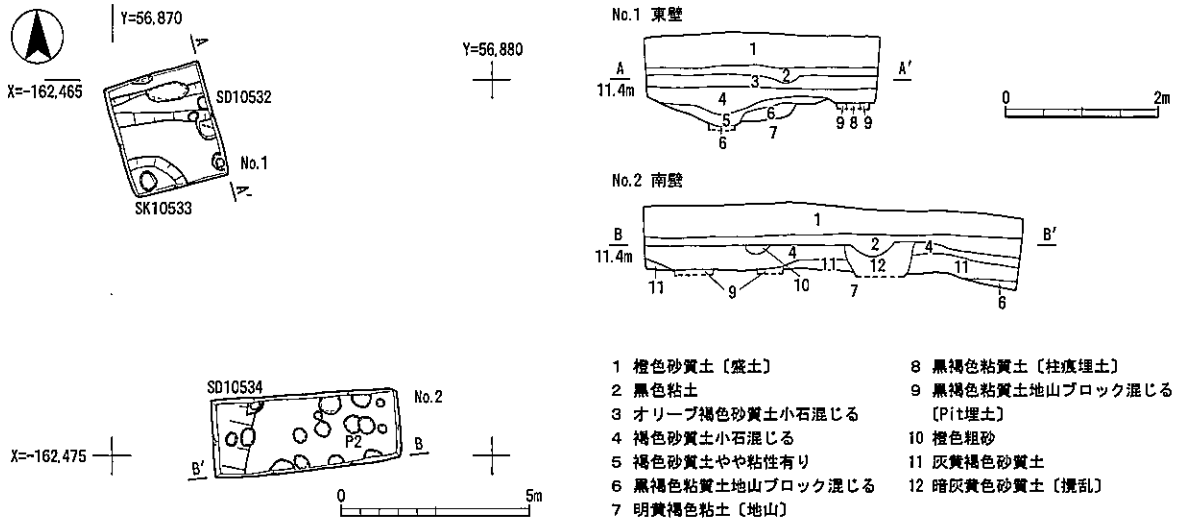
調査地は、史跡南部に位置する宅地で、個人住宅の建築に伴い、地下遺構を確認するための事前調査を実施した。

調査区は、北側にトレンチNo.１、南側にトレンチNo.２を設定した。調査の結果、現地表面下約0.8～0.9m（標高11.1～11.0m）で地山面である明黄褐色粘土層を確認した。遺構は溝２条、土坑１基、ピットを検出した。トレンチ２では直径0.4～

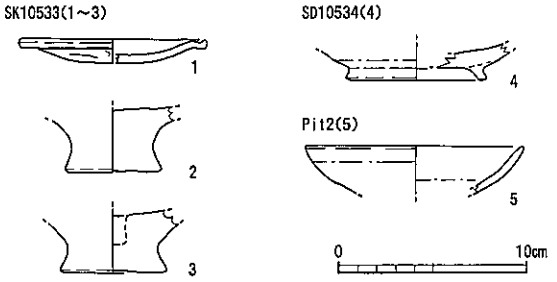


第７図　第178-５次調査区位置図（１：2,000）

0.5mのピットを多数確認しており、掘立柱建物になるものと考えられるが、調査区が狭小であるため、今回の調査では建物を判別することはできなかった。土坑ＳＫ10533は南西部に位置する土坑で、ての字状口縁を有する土師器皿（１）、ロクロ土師器台付皿（２・３）が出土している。これらは斎宮編年Ⅲ-２～３期に属するものと考えられる。溝ＳＤ10532は、トレンチNo.１北端に位置する溝で、土師器片や陶器片が僅かに出土するが、時期は不明である。溝ＳＤ10534はトレンチNo.２の西端に位置する溝で、陶器椀（４）や土師器甕・ロクロ土師器台付皿などが出土しており、斎宮編年Ⅲ-２～３期のものと考えられる。このほか、Pit２から土師器皿（５）が出土している。



第８図　第178-５次調査　遺構平面図（１：200）・断面図（１：100）



第９図　第178-５次調査　遺物実測図（１：４）

4　第178－６次調査（６ＡＳ13）

調査場所　多気郡明和町字中西2756

原　　因　住宅建替

調査期間　平成25年１月23日～１月24日

調査面積　28.7㎡

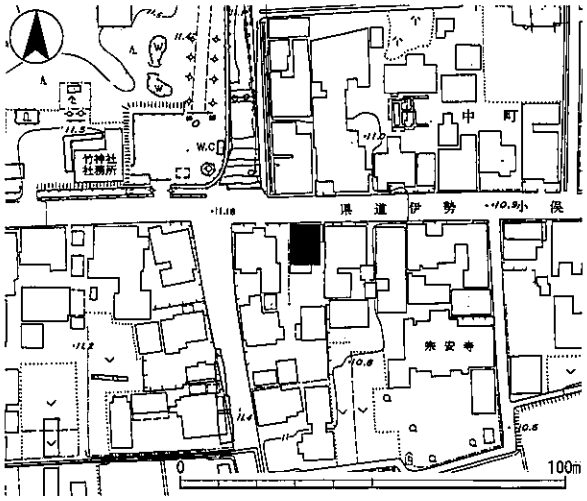
調査地は、伊勢街道に面した宅地で、竹神社の南東約30mに位置し、方格地割の鈴池東区画北東角部分にあたる。北隣の牛葉東区画は、斎王の居所である「内院」に推定されている。

今回の調査は住宅建替に伴い、耐震対策のための鋼管杭設置部分について、７本のトレンチを

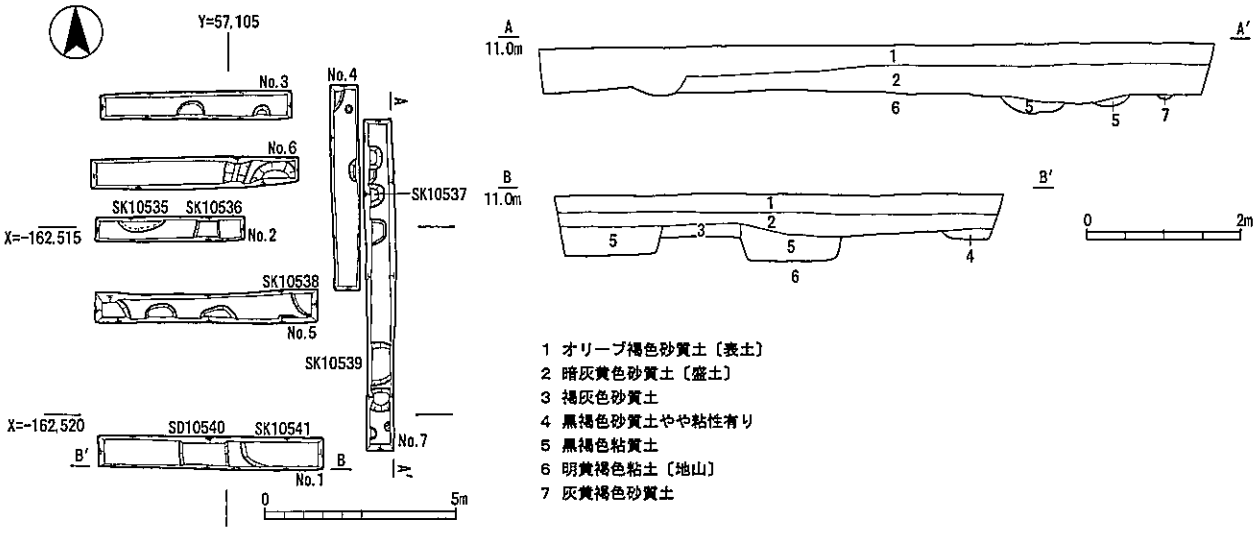
設定して、発掘調査を実施した。

調査地は、全体的に現地表面下0.4～0.6mまで盛土がなされており、その下で褐灰色砂質土層を、現地表面下0.6～0.7m（標高10.2～10.3m）で明黄褐色粘土層の地山面を確認した。遺構は溝や土坑を多数確認したが、遺物は近世末期の陶器や磁器、硯等しか出土しておらず、いずれの遺構も近世に属するものと考えられる。

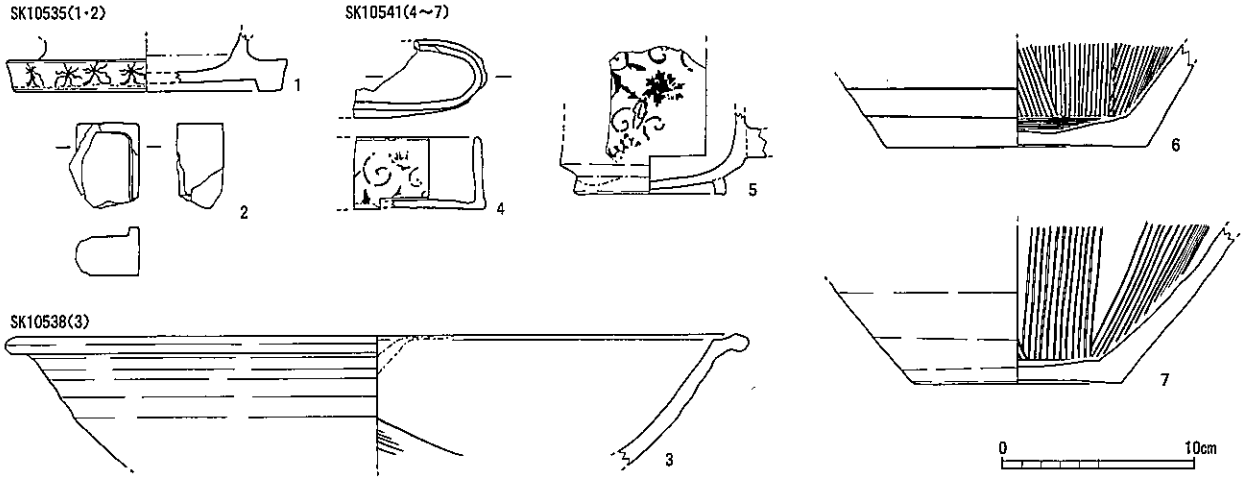
１・２は土坑ＳＫ10535から出土したもの。１は陶器火鉢の底部。外面には草色の釉薬が掛かり、台座には簡略化された花状の文様が巡る。瀬戸窯の呂宋瓶掛で、19世紀前半のもの。２は石製硯。



第10図　第178-６次調査区位置図（１：2,000）



第11図　第178-６次調査　遺構平面図（１：200）・断面図（１：100）



第12図　第178-６次調査　遺構実測図（１：４）

３は土坑ＳＫ10538から出土した陶器鉢。体部内面にはハケメ状の鉄絵や浅緑色の施釉文様が見られる。４～７はＳＫ10541から出土したもの。４は陶器鬢盥で、体部は直立し、平面は長細い楕円形を呈する。体部外面に鉄絵で唐草文様が描かれる。５は把手付碗で、体部外面に花文や唐草文が描かれる。６・７は陶器擂鉢。これらは、概ね近世末期のものと考えられる。

5　第178－７次調査（６ＡＧ11）

調査場所　多気郡明和町竹川字中垣内460-2、434-7、435-2、436-4、430-6

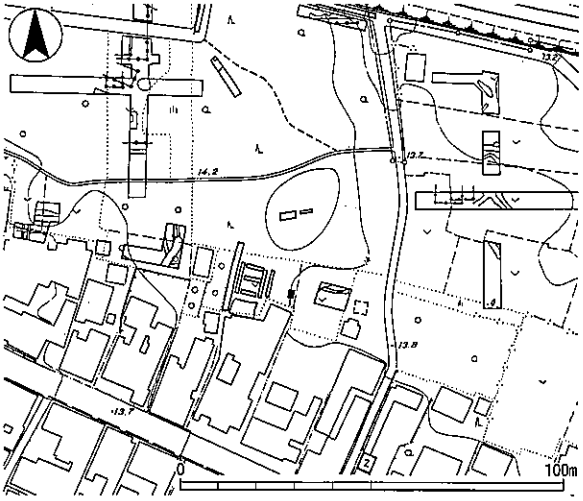
原　　因　住宅新築

調査期間　平成24年12月28日

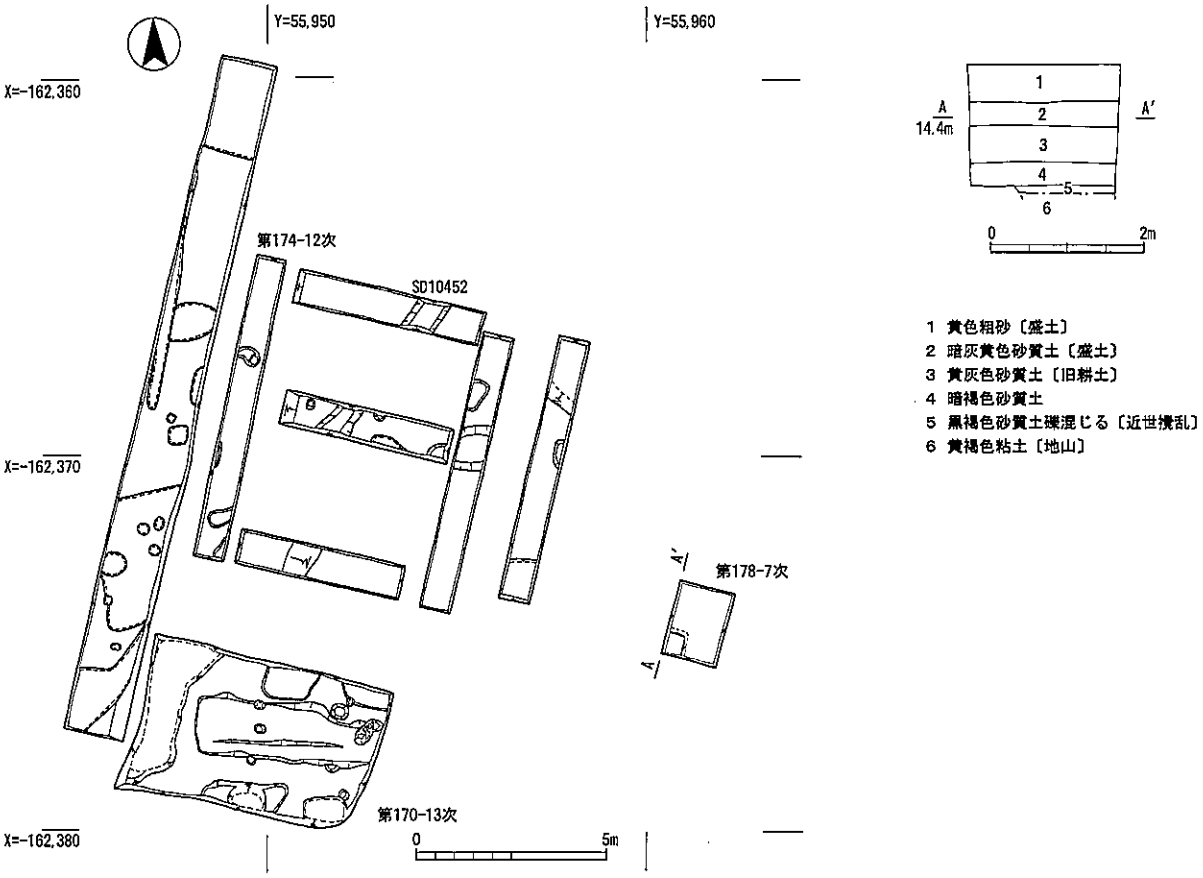
調査面積　３㎡

調査概要

調査地は史跡西部に位置し、個人住宅の建築に伴い、合併浄化槽設置部分について発掘調査を実施した。当敷地内では、平成22年度に第170-13次調査を、平成23年度には第174-12次調査を行っており、溝・土坑・ピットを確認している。



第13図　第178-７次調査区位置図（１：2,000）



第14図　第178-７次調査　遺構平面図（１：200）・断面図（１：100）

基本層序は、現地表面下に0.8mの盛土があり、その下に旧耕作土である黄灰色砂質土や暗褐色砂質土が堆積している。現地表面下1.6m(標高13.5m)で黄褐色粘土の地山面を確認した。調査区の大半は近世の攪乱を受けており、遺構は確認出来なかった。

6　第178－８次調査（６ＡＭ11）

調査場所　多気郡明和町斎宮字広頭3389-16・17・18・19・20・23

原　　因　住宅建替

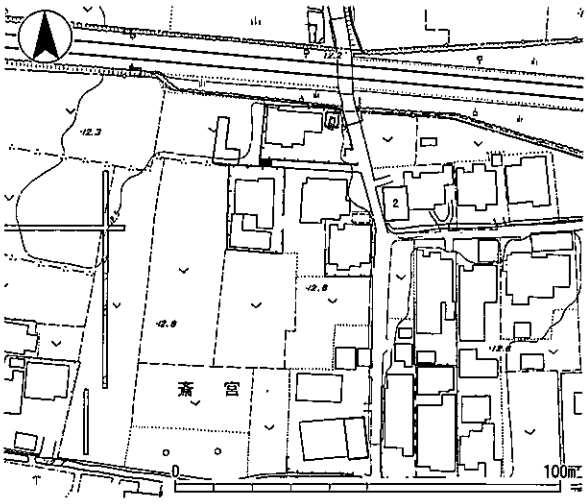
調査期間　平成25年３月28日

調査面積　5.1㎡

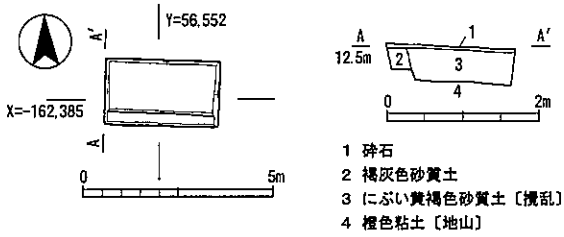
調査概要

調査地は史跡中央部、斎宮小学校の東約120mに位置する宅地である。合併浄化槽の設置に伴い、発掘調査を実施した。

基本層序は、現地表面下に約0.1mの表土・砕石があり、その下に褐灰色砂質土の包含層を確認した。現地表面下約0.4m(標高約12.1m)で橙色粘土層の地山面を確認した。調査区の大半は、すでに攪乱を受けており、遺構・遺物ともに確認できなかった。



第15図　第178-８次調査区位置図(１：2,000)



第16図　第178-８次調査　遺構平面図(１：200)・断面図(１：100)

【註】

（1）『斎宮跡発掘調査報告Ⅰ』斎宮歴史博物館、2001

次数	遺構名	調査時遺構名	時期	出土遺物	備考
178-1	SD 10530	溝1	平安時代前期？（Ⅱ期？）	土師器甕・把手付鍋、須恵器甕	
	SD 10531	溝2	－	－	
178-5	SD 10532	溝2	－	土師器片、陶器片	
	SK 10533	土坑1	平安時代後期（Ⅲ－2～3）	土師器皿、ロクロ土師器台付皿	
	SD 10534	溝1	平安時代後期（Ⅲ－2～3）	土師器甕、ロクロ土師器皿・台付皿、灰釉陶器椀	
178-6	SK 10535	土坑1	近世末期	陶器火鉢、硯	
	SK 10536	土坑2	近世末期	土師器羽釜	
	SK 10537	土坑6	近世末期	陶器捏鉢	
	SK 10538	土坑4	近世末期	陶器鉢	
	SK 10539	土坑5	近世末期	土師器羽釜、陶器捏鉢・壺	
	SD 10540	溝1	近世末期	土師器羽釜	
	SK 10541	土坑3	近世末期	土師器羽釜・鍋、陶器皿・鍋・壺・擂鉢、瓦	

第２表　第178次調査　遺構一覧

178-２次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	皿	No. 1 包含層	口径 器高	13.6 2.9	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	橙5YR6/6	口縁部 3/12		001-01

178-５次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	土師器	小皿	SK10533	口径 器高	9.6 1.3	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	灰白10YR8/2	口縁部 4/12	粘土接合痕あり	001-04
2	ロクロ土師器	台付皿	SK10533	残高 底径	3.4 4.7	外面:ロクロナデ、糸切り痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR7/4	底部3/12		001-02
3	ロクロ土師器	台付皿	SK10533	残高 底径	3.3 5.2	外面:ロクロナデ、糸切り痕 内面:ロクロナデ	密	良	にぶい黄橙10YR6/3	底部4/12		001-03
4	灰釉陶器	椀	SD10534	残高 底径	1.9 6.9	外面:ロクロナデ、貼付高台、糸切り痕 内面:ロクロナデ	密	良	灰白5Y7/1	底部2/12	重ね焼痕あり	001-05
5	土師器	皿	トレンチ2 Pit2	口径 残高	11.3 2.5	外面:ヨコナデ、オサエ・ナデ 内面:ヨコナデ、ナデ	密	良	浅黄橙7.5YR8/4	口縁部 2/12		001-01

178-６次調査

番号	器種	器形	地区遺構	法量(cm)		調整・技法の特徴	胎土	焼成	色調	残存度	備考	登録番号
1	陶器	瓶掛火鉢	SK10535	残高 底径	3.1 13.7	外面:ナデ 内面:工具ナデ、ナデ	密	良	釉:草色834 素地:灰白2.5Y8/3	底部2/12	瀬戸産呂宋瓶掛	002-01
2	石製品	硯	SK10535	高さ	2.5	内面:ケズリ	-	-	-	2/12		002-02
3	陶器	鉢	SK10538	口径 残高	37.7 6.9	外面:ロクロナデ 内面:ロクロナデ	密	良	釉:象牙色789	口縁部 2/12	全面施釉、内面に鉄絵・施釉文様	002-03
4	陶器	鬢盥	SK10534	器高	3.8	外面:ナデ 内面:ナデ	密	良	釉:浅緑840 素地:灰白2.5Y8/2	4/12	外面に鉄絵	001-02
5	陶器	椀	SK10534	残高 底径	4.3 7.7	外面:ロクロナデ、ナデ、貼付高台 内面:ロクロナデ	密	良	釉:青白橡989 素地:淡黄2.5Y7/3	底部ほぼ完形	外面に鉄絵	001-01
6	陶器	擂鉢	SK10534	残高 底径	5.4 13.4	外面:ロクロナデ、底部糸切痕 内面:スリメ	密	良	釉:褐7.5YR4/3	底部6/12	スリメ18本1組、鉄釉	001-04
7	陶器	擂鉢	SK10534	残高 底径	8.3 10.4	外面:ロクロナデ、底部糸切痕 内面:スリメ	密	良	釉:灰褐5YR4/2	底部完形	スリメ12本1組、鉄釉	001-03

第３表　第178次調査　出土遺物観察表

付編　史跡現状変更等許可申請

平成24年度に提出された史跡現状変更等許可申請は、35件である。発掘調査を行ったのは、前年度申請分も含め10件で、内訳は、史跡の実態解明のための計画発掘調査が２件、個人や公共事業の現状変更に伴うものが８件（うち前年申請分２件）である。

35件の申請の内25件は、宅地敷地内における個人住宅の建設など小規模であったり、工事が簡易で地下遺構に影響を及ぼさないものである。なお、基礎掘削工事にあたっては斎宮歴史博物館調査研究課並びに明和町斎宮跡・文化観光課職員の立会いのもとで実施している。

24年度の申請の内容は、一覧表（第４表）のとおりであり、これらの申請を（A）個人等から申請されるもの、（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴うもの、（C）史跡環境整備および維持管理等に伴うもの、（D）発掘調査のための申請に分けることができる。

（A）個人等による申請

個人等による申請は、住宅等建設、解体に伴うもので17件あった。うち住宅増築、浄化槽設置など発掘調査が必要とされた４件のうち、３件（第178－５、６、８次調査）について調査を行い、１件は着工時期の関係で次年度調査とした。

他の13件については、住宅建築や撤去、工作物の設置等で土地利用区分の第四種保存地区にあたり、工事立会い等の条件付許可により、史跡に影響を及ぼすことなく施工している。

（B）公共機関等による地域の生活環境整備に伴う申請

この申請は12件の提出があった。うち発掘調査が必要な申請は３件あり、学校施設整備に伴う事前発掘調査（第178-４次調査）と竹神社のトイレ改修（第178-３次調査）の２件を実施した。鉄道関係の申請については、次年度の調査とした。

他の９件については、電気・電話関係であり工事立会いで着工している。

（C）史跡環境整備および維持管理等に伴う申請

この申請は４件あり、内容は史跡東部整備工事関係が１件、史跡公園の管理・活用に伴うものが２件、明和町歴史的風致維持向上計画事業を推進するための発掘調査（第178-２次調査）1件である。

（D）発掘調査のための申請

この申請は２件の提出があった。これは、三重県が主体となって斎宮歴史博物館が実施している計画発掘調査（第176次・第177次調査）で、853㎡が調査された。

これらの内容については斎宮歴史博物館から別途調査概報が刊行される。

（中野敦夫）

	申　請　地	種別	申　請　者	変　更　内　容	申請日	許可日	変更面積	区分	備　考
1	斎宮字西加座2675-2	D	三重県	発掘(計画)調査	H24.4.18	H24.5.18	310㎡	1	第176次調査
2	斎宮字下園2926-3ほか5筆	D	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H24.4.16	H24.6.15	490.5㎡	1	第178-２次調査
3	竹川字中垣内401-1	A	個人	プレハブ倉庫の設置	H24.4.19	H24.5.9	1棟	2	
4	斎宮(柳原・御館・西加座・下園)地内	C	三重県	柳原区画整備	H24.4.23	H24.6.15	27,500㎡	1	
5	斎宮字篠林3176-3	A	個人	住宅増築	H24.4.26	H24.6.15	1基	4	
6	斎宮(県道伊勢小俣松阪線)地内	B	西日本電信電話(株) 三重支店	支線取替	H24.5.31	H24.7.2	1本	3	
7	斎宮(町道　斎宮駅前線)地内	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱取替	H24.5.31	H24.7.2	3本・1条	3	
8	斎宮字下園2810-1ほか3筆	D	三重県	発掘(計画)調査	H24.8.17	H24.9.21	543㎡	1	第177次調査
9	斎宮字広頭3389-10,-11,-15	A	個人	住宅改築	H24.9.14	H24.10.19	128㎡	4	
10	斎宮字広頭3381-3ほか8筆	B	明和町 (斎宮跡・文化観光課)	発掘調査	H24.9.13	H24.10.19	1,318㎡	3	第178-４次調査
11	斎宮字牛葉2757-1	B	宗教法人　竹神社	トイレ改修	H24.9.18	H24.10.19	1基	4	第178-３次調査
12	斎宮字中西2404	A	個人	蔵解体	H24.9.24	H24.11.16	96.64㎡	4	
13	竹川字東裏354-13	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電柱建替	H24.9.24	H24.10.16	1本	4	
14	斎宮字西前沖2604-49	A	個人	倉庫解体	H24.9.25	H24.10.19	1,295.17㎡	4	
15	斎宮字牛葉3036-2	A	個人	塀建替	H24.10.9	H24.11.16	L=10m	4	
16	斎宮字牛葉2757-2	A	個人	絵馬掛設置	H24.10.9	H24.11.16	1基	4	
17	斎宮字広頭3389-16ほか5筆	A	個人	住宅建替	H24.10.11	H24.11.16	104㎡	4	第178-８次調査
18	斎宮字牛葉3017-2	A	個人	住宅建築	H24.10.11	H24.11.16	98.13㎡	3	第178-５次調査
19	斎宮字古里3284 斎宮字篠林3136-1	A	個人	土留め設置	H24.10.15	H25.11.8	L=43.9m	3	
20	竹川字東裏336-1	B	西日本電信電話(株) 三重支店	支柱の新設	H24.10.24	H25.11.8	1本	4	
21	竹川字中垣内493-6,20	A	個人	住宅新築	H24.10.29	H25.1.18	72㎡	4	
22	竹川字中垣内472-1	B	西日本電信電話(株) 三重支店	支柱・支線の新設	H24.11.7	H24.12.10	2本	3	
23	竹川字中垣内460-3	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱建替	H24.11.8	H24.12.12	1本	4	
24	斎宮字西前沖2604-17	A	個人	住宅増築	H24.11.15	H25.1.18	12㎡	4	
25	竹川字中垣内474-1	B	西日本電信電話(株) 三重支店	支線新設	H24.11.19	H24.11.30	1本	2	
26	斎宮字中西2404	A	個人	U字溝設	H24.11.26	H25.1.18	L=10m	4	
27	竹川字古里559-27	C	斎宮跡観光協議会	植栽	H24.12.13	H25.1.18	5本	3	
28	斎宮字中西582-2	A	個人	住宅建替	H24.12.12	H25.1.18	94.71㎡	4	第178-６次調査
29	竹川字中垣内439-3ほか2筆	B	近畿日本鉄道(株)	鉄塔付替	H24.12.26	H25.2.27	２基	3	第179-２次調査
30	斎宮字牛葉3391	A	個人	住宅増築	H25.1.17	H25.2.27	6.62㎡	4	
31	斎宮地内	B	西日本電信電話(株) 三重支店	電話柱建替	H25.1.16	H25.2.22	1本	1	
32	竹川字中垣内493-20	B	中部電力(株) 松阪営業所	電柱・支線の新設	H25.2.8	H25.2.22	1本	4	
33	斎宮字中西2748-1	A	個人	住宅撤去	H25.2.14	H25.3.26	119.22㎡	4	
34	斎宮字広頭3389-10地先	A	個人	給水管工	H25.3.18	H25.4.19	1本	3・4	第179-１次調査
35	斎宮字宮の前3119-1ほか4筆	C	(財)国史跡斎宮跡保存協会	仮設木製橋設置	H25.3.19	H25.3.28	L=130m	1	

第４表　平成24年度現状変更等許可申請一覧

写 真 図 版

第178－１次調査区全景（東から）

第178－３次調査区全景（西から）

写真図版２

第178－５次トレンチ1全景（北から）

第178－５次トレンチ２全景（西から）

第178－６次トレンチ１～４全景（北から）

第178－８次調査区全景（西から）

報 告 書 抄 録

ふりがな	しせきさいくうあと　へいせいにじゅうよねんどげんじょうへんこうきんきゅうはっくつちょうさほうこく
書　　名	史跡斎宮跡　平成24年度現状変更緊急発掘調査報告
副 書 名	
巻　　次	
シリーズ名	三重県多気郡明和町斎宮跡埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	30
編 著 者 名	新名　強　中野敦夫
編 集 機 関	斎宮歴史博物館（調査研究課）　明和町（斎宮跡・文化観光課）
所　在　地	〒515-0332　三重県多気郡明和町大字馬之上945番地　℡　0596（52）7126
発行年月日	西暦　2014年３月14日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
斎宮跡（さいくうあと）	多気郡明和町（たきぐんめいわちょう） 斎宮（さいくう）・竹川（たけがわ）	24442	210	34° 31′ 55″ ～ 34° 32′ 30″	136° 36′ 16″ ～ 136° 37′ 37″	20120401 ～ 20130331	全８件 1,899.2㎡	史跡現状変更に伴う緊急発掘調査（史跡斎宮跡第178次調査）

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
斎宮跡第178次	官衙	平安・近世	溝・土坑・ ピット	土師器　須恵器 灰釉陶器 近世陶器	

要約

第178次調査は、史跡内における現状変更に伴う緊急発掘調査である。

178－１・５・６次調査は個人住宅の新改築に伴う調査を、第178－３・７・８次調査は合併浄化槽設置に伴い調査を行った。いずれも小規模な調査であり、多くの遺構は確認することはできなかったが、史跡内での新たなデータを蓄積することができた。

史跡　斎宮跡

平成24年度

現状変更緊急発掘調査報告

平成26(2014)年3月14日

編　集　斎宮歴史博物館
明和町

発　行　明和町

印　刷　光出版印刷株式会社